



謹賀新年

会長 小野 貴 嗣

皆さま明けましておめでとうございませう。年頭の御挨拶の始めに、まずもって聖寿の萬歳を壽ぎ参り、御皇室の弥栄を心より御祈り申し上げます。

本会の新年会は一月十三日に神田神社長生殿に於て開催されましたが、猿渡副庁長先生を始め諸先生方そして多数の先輩諸賢の御出席を頂き、又爽やかな顔の同志の皆様と久しぶりに一同に会し、身にあまる幸せを感じました。ほんとうにありがとうございます。

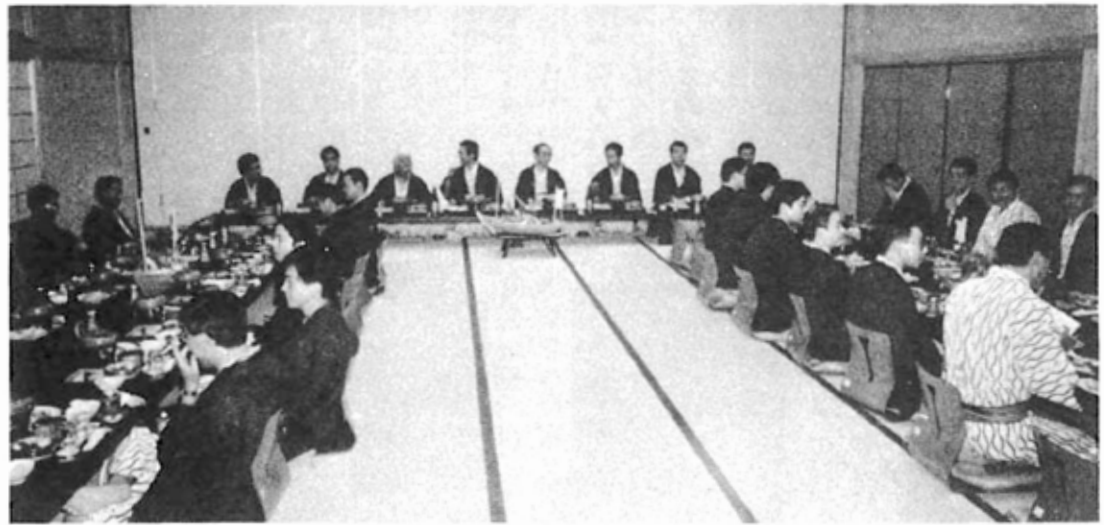
去年の四月に押見前会長からバトンタッチされ、五里霧中で今日迄参りましたが、十一月に念願の健康診断を神社庁の共催を頂いて役員委員の皆さんの手で実施出来ました事洵にありがたく感謝申し上げます。検査の詳しい結果は本紙に掲載致しました通り、四割の方々が健康に注意しなければならぬとの報告がございました。まず己を知り健康に対処していく第一歩を踏むことが出来ましたので本年も継続して参りたいと思っております。

さて本年は天皇陛下御在位六十年奉祝運動実施の歳に充たります。「日本の平安と国民の幸せ」を常に御祈り遊ばされ、六十年に渡り私共に慈しみを賜ります天皇陛下に、至誠を尽し感謝の誠を捧げる為に能円坊実行委員長のもと、三

月に皇居の清掃奉仕を実施し、その体験を経て広く一般の人達の奉祝の声を陛下に捧げる事業を考え、国民精神の昂揚を図って参りたいと存じます。

又七月十六日には一都七県関東地区総会が東京が当番として開催されます。こちらの方も北川実行委員長のもと「首都東京らしさ」を折り込み、青年神職の輪を拡げていくべく準備致して居りますが、皆様の絶大なる御協力を切に御願ひ申し上げます。両実行委員会共担当部長を除いた役員は入らずに「委員さんの創意で事業を作り上げていく」ことで神青会のパワーアップを図って参る所存です。

今後は神青会三十六年の伝統を踏えながら本宗と仰ぐ伊勢神宮の遷宮奉賛活動を通じて、広く一般の人達に日本の基をどの様に認識させ神社神道のより一層の発展を期するべきか、又戦後の苦難を乗り越えて今日の日本を築かれた人々が高齢化していく社会に、青年神職として何が出来るのかを真剣に模索し、行動に移すべく準備に取り組んで参りたいと思っております。どうか本年も会員諸賢の御協力を賜り、素晴らしいチームワークのもと、力強い連帯感と自分達の持つ力を如何なく発揮して「心の通い合う青年運動」を展開していこうではありませんか。



忘年旅行会

七五三行事も一息ついた十一月二十八日・二十九日の両日、箱根湯本のホテル「パークス吉野」に

於てにぎにぎしくも厳肅?に開催されました。

お忙しい中にもかかわらず駆け付けて下さいました先輩諸兄氏を始め多くの会員の皆様の参加を頂き、歳を忘れての楽しい宴を持つ事が出来ました。

きれいどころに勧められるままに飲めや歌への大さわぎも終りに近づいた頃、空になったウイスキー・ビール・日本酒の数のすさまじさ、事業部一同青くなる一幕もありましたが、引続いての二次会まで無事終える事が出来ましたのも、これ一重に先輩諸兄氏の過分なる御祝金の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

ここで某会員よりのマル秘報告「僕達の部屋の者は皆二次会でダウン、部屋に戻ってボタンキューの状態でした。当然冷蔵庫のビールは一本も飲みません。しかるに翌朝の各部屋の会計の時、女中さんが調べたらビールは一本もありませんでした。忽然と姿を消してしまつたのです。きっと各部屋に戻ってから三次会をした他の部屋の人が我々が寝ている間に持って行ってしまつたんだと思います。こういう事はいけなと思います。」



新年会

新春の一月十三日に神田明神会館をお借りして、恒例の新年互礼会を開催致しました。

始めに、『地域社会の再開発における神社の意義』と題し、(株)電通 営業企画局地域計画部参事であります池田友彦氏により、新春講演会を行いました。「二十一世紀に向けて地域社会を再構築し、活性化をはかるを目的とした地域計画室の中心となられ、その核には神社がなるべきであり、新しい形での氏・子の確立こそ活性化の中心をなす」とのテーマで一時間

お話し頂きました。引続き、御神前にて正式参拝・敬神生活の綱領唱和の後場所を移し開会した。

式次第にのっとり無事進み、いよいよ懇親会に入り、神田神社宮司様の発声により乾盃の後にぎやかな宴となりました。

宴もたけなわの頃、近年大変な人気を博して参りました恒例の福引も行われ悲喜こもごもの歓声も上りまして、なお一層の盛り上りを見ました。

楽しい一時を過しそれぞれの思いを胸に一同解散致しました。



日時 昭和60年11月20日(水) 赤口 9:00より
 場所 東京都神社庁駐車場及び会議室
 対象 都内神職及び家族(ご婦人も含む)
 費用 一人 12,000円

検査項目

- | | |
|-----------------------|---|
| ◎ 一般計測(身長・体重・視力) | ◎ 肝機能検査(TTT・ZTT・GOT・GPT・ γ -GTP・ALP) |
| ◎ 内科診察(血圧測定含む) | ◎ 脂質検査(総コレステロール・中性脂肪) |
| ◎ 尿検査(糖・蛋白・ウロビリ) | ◎ 糖尿病検査(空腹時血糖) |
| ◎ 胸部レントゲン(間接) | ◎ 腎機能検査(BUN・総ビリルビン) |
| ◎ 胃部レントゲン(間接) | ◎ 痛風検査(尿酸) |
| ◎ 心電図検査(安静時・12誘導) | ◎ 膵臓検査(血清アミラーゼ) |
| ◎ 貧血検査(赤血球・白血球・Hb・Ht) | |

★ ご婦人の為の子宮癌検診(ホームスメア)は別料金にてお受け致します。

一人 2,500円

検査結果は病院にて一括保存しそのコピーを本人に郵送致します。保存資料はどなたにもお見せ致しませんし、他に利用される事ありません。又、個々に再検査・治療の必要な場合は、その検査結果を他の医療機関で御利用いただいてなんらさしさわりはありません。

尚、検査結果は約3週間後に出る予定です。

「健康診断」実まざる!

上記の要綱に従い健康診断が実施された。

当日は、先輩神職諸氏を始め、会員諸兄又女性を含み総勢六十余名の参画を頂き、北品川総合病院の先生方が待ち受ける中、順次検査を受けた。

血液採取の時の、注射針に顔をそむける顔、レントゲンの順番を待つ時の寒そうな姿(不安そうな姿)が印象的であった。

この健康診断も一度受ければそれで良いと言うものではないので、年に一度(理想は春・秋の二回)は受けられるのが良く、青年会に於ても今後共統けて実施していく所存で居ります。何かとお忙しい毎日とは存じますが、健康管理にもっと気配りを頂き、次回実施の際には全員の方々が受けられる事を期待致します。

なお、この診断結果につきましては、門外不出となつて居りますので全く計り知る事は出来ないのですが、漏れ伝わるところ、何と半数近くの方が何らかの異常が見つかり、再検査の呼び出しがかかったそうです。しかし皆さん大事に至る事はなかったそうで一安心。

一都七県野球大会

六月七日、一都七県神社庁野球大会が埼玉県を当番県として、浦和市に於て開催された。

東京チームは前日から現地に入り込み結束を計り、懇親会にて勝利を誓い合った。

その結果

第一戦 対栃木 八対〇

第二戦 対茨城 十対一

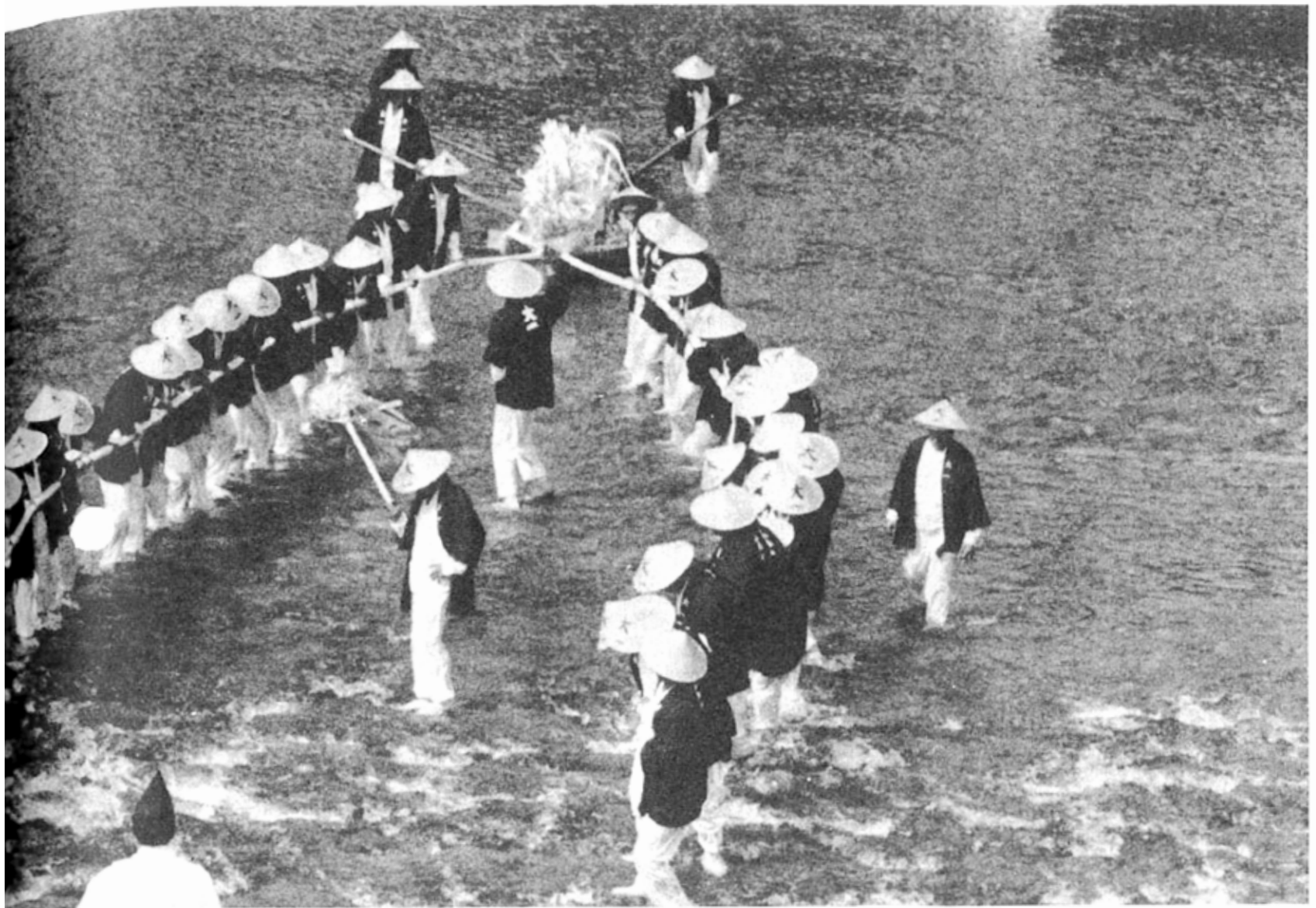
ここまで楽勝、大勝に勝ち進んだが、第三戦、ポッカリ開いた落し穴。第一戦・第二戦の勝利に気が緩んだか、決勝では群馬に二対三の惜敗、二位に甘んじた。

東西神社人野球大会

八月二十八日、伊勢に於て東西神社人野球大会が開催された。

第一戦、油断大敵の言葉通りと言う訳ではないが、いつも負けた事のない出雲・琴平連合チームにしてやられてしまった。

クジ運が良く、第二戦が三位決定戦で、これ又負けた事のない熱田チームと対戦、一瞬イヤな予感におそわれたが、監督のおどしが功を奏し、三対〇でかくも勝ち、面目を保った。



本年の遷宮諸祭

四月一日 御木曳出初式

二見浦に於て心身を清める浜参宮と式典が行われ、二年にわたる御木曳きの幕開けを飾る。

四月十二日 御木曳初式

棟木やとびら木など主な木を曳く儀式で、役曳きとも言う。内宮は川曳きと言い、五十鈴川を曳いて上り、外宮は陸曳きと言い、宮川東詰よりお木曳車に積んで曳き入れる。

四月二十一日 木造始祭

実際の御造営作業の始りを意味し、屋船神を祀り、作業の安全を祈る祭りで、御木に忌斧を打ちたてる。

四月の末より お木曳き行事

旧神領民と全国の崇敬者も一日神領民として共に奉仕し、にぎやかに用材を古式のままに両宮域に奉曳する。奉仕の前には必ず浜参宮をする。

七月十三日 仮御樋代木伐採式

正殿から新殿へ遷御の渡御の時に、御神儀を奉安する仮御樋代と仮御船代の御用材を伐採するにあたり、その木の本に坐す神をお祀りする祭り。

「遷宮の『ところ』を

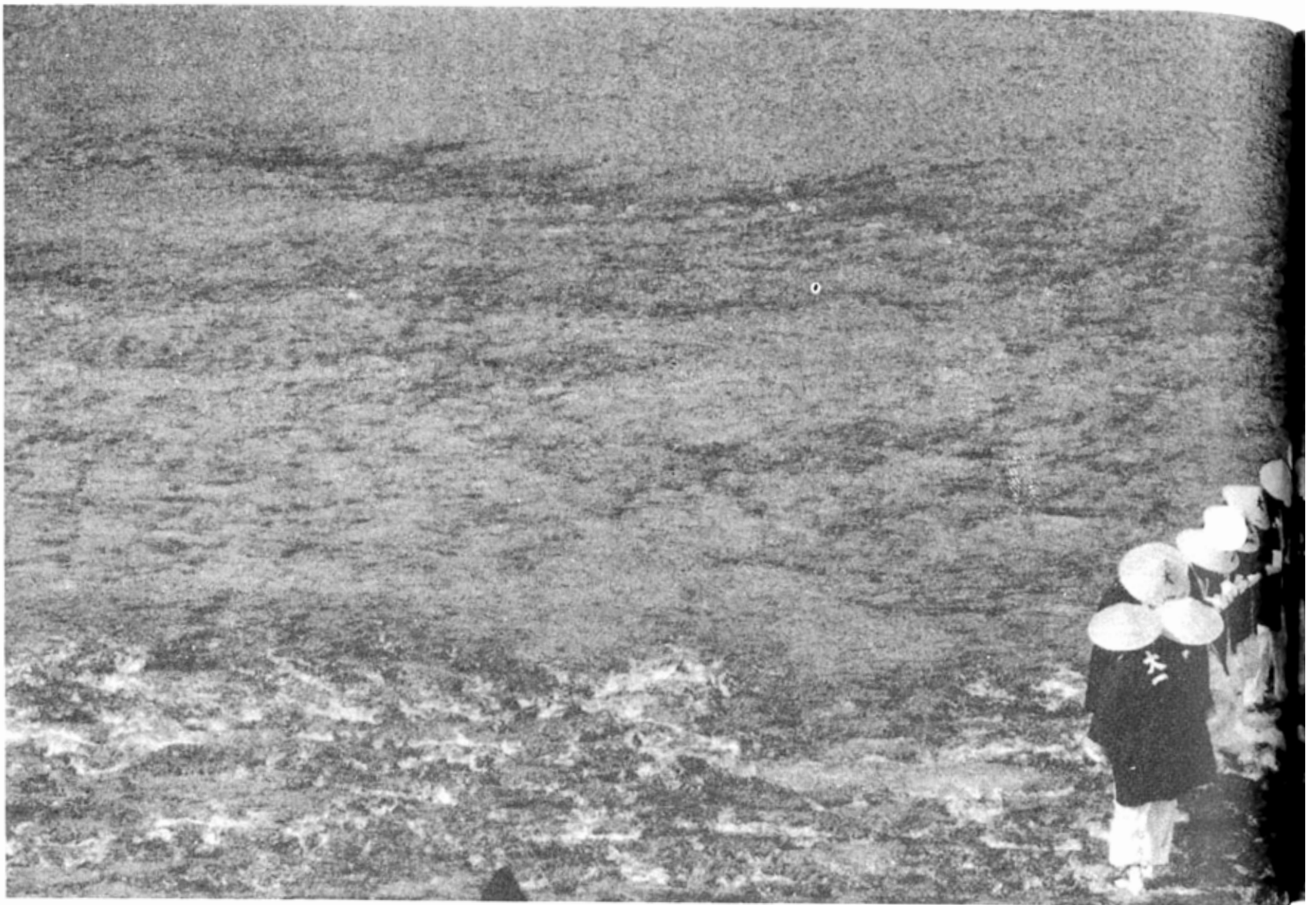
守り伝える委員会」

その後の活動

篠 直嗣

神青協会長諮問機関として誕生致しました、遷宮の『ところ』を守り伝える委員会も、今年をもって二年目を迎えようとしております。全国各地区より選出された委員により、遷宮の「ところ」を守り伝える為に協議を重ねて参りました。さて、そこで今日までの委員会活動の概略をご報告致します。

協議検討事項第一段階として、まず現状の認識、すなわち遷宮の『ところ』を守り伝えるという問題に對して、その神職・一般国民の危機意識・問題意識は確実に存在するが、あまりにも漠然とすぎている為、ひとつの神宮遷宮という『ところ』をせざる「神社神道」そのもののあり方・将来展望といったものに目を向ける必要があるという認識の意見統合の確認を致しました。現状認識をとらえることにより、先の時代を予測し、それに対応をしていくことが次の問題と



なりません。次世代を担う人達に対する神社界としてのアプローチを早め、目先の問題にとらわれず、六十二・六十三回の遷宮をめざし、急速に変化していく時代に向け、そのニーズを掘り起すことが必要となろう……委員会の見解でした。

そして第二段階では、遷宮のころを守り伝える為に啓蒙活動を行うことを目的とする種々の研究調査を行い、国民総奉賛の実を挙げるといふ基本理念により、そのモットー・夢・アイデアを各委員がもち寄り、分析研究の結果、私共青年神職が遷宮の「こころ」を学ぶことが第一儀であり、その発意が運動となって展開されるべきであるという結論に達したのであります。

これによって現在進行中の第三ステップとしてまず、(1)意識調査……これからの国民的ニーズ・長期予想・神社神道への意識・遷宮に対する意識・神青協会員の意識。そして(2)式年遷宮の「こころ」とは何か……その意義。また(3)神青協の遷宮に対する基本的取組み……基本的理念・方針・長期ビジョン・現状と今後の対応・具

体的方策。加えて(4)国民運動としての遷宮……各単位会(各地神青)の活動について・現状と今後の認識・地域社会とのかわり・遷宮運動を核としての社会の活性化と組織化・方策。といった具合に分類整理の上、全委員がそれぞれ各部署について、その目的達成の為に協議努力を致しております。神宮式年遷宮は、国家の大事であるとの国民的合意をもって既に六十回が重ねられてきました。その民族の道統たる遷宮の「こころ」を守り伝える為、全国民挙げてその奉賛に赤誠を示すべく、次なる世代を担う私共青年神職が、今なすべきことは何かを考えるとこそ、最も重要な点であると思えます。

今後共ご協力の程願い上げまして、以上、委員会活動概略のご報告を申し上げます。

JUST JAPAN 60 天皇陛下御在位60年奉祝東京大会について

奉祝実行委員長 鈴木昭樹

まずこの東京大会の奉祝行事の対象者を一般の層に絞りこんでいる事が特長と言えます。

この一般の層とは、青年神職・氏子青年は既に日本を守る国民会議を中心とする奉祝委員会主催の「国民の集い」（昨年11月13日 於 日本武道館）、又は各地の奉祝行事に参加していると思われるし、さらに昨年「国際青年の年」と称し政府・地方公共団体等で様々な“青年の集い”があったものの天皇陛下御在位60年を奉祝した行事は皆無に等しい状態であった点を考え、さらに戦後世代が国民総人口の過半数を占めるに至った現状を鑑みた時、我々が対象とする層は、平素、天皇陛下への崇敬の念を忘れがちな戦後世代を中心とした一般人を対象とすることが必要であるとの見地に立ったものであります。

そこでその方法として、従来の身内の人々を動員しての大会という方法をとらず、その波及効果また対象とする層が日常生活の中でごく自然に親しんで入りこむことが可能である「テレビ」という媒体を使用することにいたしました。同じ理由からテーマである“JUST JAPAN 60” JUST 60であり JUST JAPAN すなわち天皇陛下の御在位60年を奉祝すると共に、今こそ日本の美しい伝統文化を広く社会に訴えようとこのテーマに決定いたしております。

その波及規模に関しましては、テレビ東京をキー局としてテレビ愛知・大阪テレビ・瀬戸内テレビ・他にUHF数局をネットに結んで放映し、さらに番組をビデオテープにおさめ本事業に協力いただいた方々に返礼することにより全国規模での波及効果が考えられるといえます。さらに草の根運動ではありませんが、番組放映日が決定されしだいポスターを製作し社頭などに掲示することにより一人一人が掘り起こす啓蒙運動に参画していただきより多くの波及効果を得られるものと考えております。

さてそこでこの裏づけとなる予算案は総額約2千2百万円です。この中の2 神青協事業会計繰入金6百万円の部分で会員の皆様方に「ねくたい 4千円」「トレーナー 5千円」の購入依頼方をお願いをいたしております。特に「ねくたい」は今後神青協の会員証代りとして大会・総会・研修会等で御着用いただくよう製作いたしておりますので必ず1本は御購入いただくようお願い申し上げます。

「トレーナー」も御自分にとどまらずより多くの方々にJUST JAPAN 60と胸に入りましたトレーナーを着ていただきより多くの関心の輪を広げていただきたくお願い申し上げます。どのような運動にも中心となる熱いともしびが必要かと思われれます。今回はその核を東京・関東の1都7県の皆様方の情熱をおよせいただきましたことに深く感謝いたしております。是非ともそのともしびをより熱いものとし全国に波及させるべく全力を投入いたしますので、何分にも力強いご支援をお願い申し上げます。

みそぎ錬成会

七月十、十一日の二日間に亘り、東京都神道青年会及び東京都地方研修所の主催による禊錬成研修会が、道彦 斎藤成徳先生、助彦 八木光昭 斎藤直考 両先生の御指導のもとで四十数名の参加を得て開催された。初日、開講式時に小野貴嗣会長、神社庁より今井香先生のお言葉があり、道彦 斎藤成徳先生より、禊の心得について諸注意を受けた後、霊山御岳山より流れる綾廣の滝で好天のもと一回目の禊が行われた。また夜に至っては、代々木八幡神社 宮司平岩満雄氏より神道についての御講話を拝聴し、一同深い感銘を受けた。二日目は、折りしも豪雨の中心気盛んな会員が予定の時刻を待たずに禊行に入るなど、これまでになく充実したものだった。

こうして二日間の禊研修会は、けが人もなく皆元気な姿で閉講式に臨んだ。小野会長挨拶の後神社庁より猿渡盛文先生が参加者全員にねぎないのお言葉を掛けられ、修了書を手にした参加者は、皆すこやかな清々しい顔つきで、充実した二日間を過ごした様だった。



ソフトボール大会

七月二十二日、今回で七回目の実施となったソフトボール大会が好天(全く暑い一日でした)の神宮外苑球場に於て開催された。

神社庁諸先生方に御祝辞及び激励のお言葉を頂き、対戦チームを決める抽選も無事済み、いよいよ試合開始、小野会長による始球式の後プレーボール。

炎天下三試合するのはきついがこれも勝ったればこそ、明治記念館の女子チームも頑張ったが敗退いよいよ決勝、ここまで勝ち進んで来たのは第二地区と第三地区、決勝にはおなじみのチームの対戦である。

ここに至るまで、各チーム共、珍プレー・好プレーの続出、勿論

圧倒的に珍プレーが多いのは言うまでもないだろう。チャンスがあったらビデオにでもとっておくと楽しい事だろう。

決勝の結果は、見事第三地区の勝利。優勝旗は第三地区の手に。

七回目を数えるこの大会だが、決勝戦に残るチームが決ってきてしまった様だ、毎年勝つチームは勝ち、負けるチームは必ず負けるという感じになって来た。顔ぶれが変わらない以上仕方ないし、何も勝負にこだわる訳ではないのでこれで良いのかも知れないが一考の余地はあるのではなからうか。

東神ドライブクラブ

八月五日、好天の元八王子インターを出発点として、奥多摩湖・大菩薩峠・勝沼のコースを総勢二十一名、車八台によるラリーが行なわれた。

このドライブには様々な問題が提示されており、今回もやはり難問・珍問の連続で一同あれやこれやの大騒ぎと相なった。問題の中にはそっと我が子に教えてもらう一幕も見受けられ終始和やかな内に目的地のブドウ園で、ボールイン楽しい一日を過ごしました。



家族懇親バーベキュー

「マスのつかみどり」
八月十九日、恒例の家族懇親バーベキューが箱根の清流に於て実施された。

当日朝七時半に集合し、大型バスにて一路箱根へ、現地にてマス釣り・子供達によるマスのつかみ取り、すいか割りなど楽しい企画が用意され大人も子供も心一つにして大いに楽しんだ。又、バーベキューでは、取りたてのマスはもとより、牛・ブタ肉、トウモロコシなど沢山焼き、川辺で食べる新鮮な味に舌づつみを打った。

昭和六十一年二月吉日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神社庁内
電話 四〇四―六五二五(代)